

## 総合計画見直しに係る指標の設定・変更等について

## 【新規設定】

「R: 年度、r: 年」

指標名	箇所	内容	考え方
森林吸収量	1 生活・安心(4) 環境負荷を最小限に抑えた持続可能な社会の構築	現状値 854 万 t -CO <sub>2</sub> (R2) 目標値 636 万 t -CO <sub>2</sub> (R7)	○北海道森林吸収源対策推進計画において、480 万 t -CO <sub>2</sub> (R12)を目標として設定。これをベースに算出。
気候変動の影響への適応策	1 生活・安心(4) 環境負荷を最小限に抑えた持続可能な社会の構築	現時点では指標を設定しない	○適応策に関する施策効果を把握・評価する手法は、国際的にも確立されていなく、国においても、現在、その開発に向けた検討を行っている。 ○このため、評価手法が確立次第、指標を設定。
感染症指定医療機関病床数	1 生活・安心(7) 強靱な北海道づくりとバックアップ機能の発揮	現状値 94 床(R2) 目標値 98 床(R5)	○北海道医療計画において、国の配置基準に基づき病床数を 98 床 (R5) と設定。
各市町村の取組によるワーケーション受入数	3 人・地域(1) 協働によるまちづくりの推進や地域コミュニティの再構築	現状値 1,068 人(R2) 目標値 前年度実績以上 (R7)	○ワーケーションの推進状況を図る指標として設定し、前年度実績以上を目指す。

## 【目標値・目標年度の変更】

「R: 年度、r: 年」

指標名	箇所	内容	考え方
温室効果ガス排出量	1 生活・安心(4) 環境負荷を最小限に抑えた持続可能な社会の構築	変更前 6,099 万 t -CO <sub>2</sub> (R7) 変更後 5,544 万 t -CO <sub>2</sub> (R7)	○北海道地球温暖化対策推進計画において、4,794 万 t -CO <sub>2</sub> (R12)を目標として設定。これをベースに算出。
循環利用率	1 生活・安心(4) 環境負荷を最小限に抑えた持続可能な社会の構築	変更前 16.0%(R7) 変更後 17.0%以上(R7)	○北海道循環型社会形成推進基本計画において、17.0%(R6)を目標として設定。R7 は 17.0%以上を目指す。
廃棄物の最終処分量	1 生活・安心(4) 環境負荷を最小限に抑えた持続可能な社会の構築	変更前 86 万 t (R7) 変更後 82 万 t 以下(R7)	○北海道循環型社会形成推進基本計画にて、82 万 t 以下(R6)を目標として設定。R7 も更なる減少を目指す。
自主防災組織活動カバー率	1 生活・安心(6) 安全・安心な生活の基礎となる防災体制の確立	変更前 R7 までに全国 平均値以上 変更後 R6 までに全国 平均値以上	○目標年度の前倒し。

指標名	箇所	内容	考え方
災害の態様に 応じた警戒避難態 勢の整備状況	1 生活・安心(6) 安全・安心な生活 の基礎となる防災 体制の確立	変更前 R7までに100% 変更後 R6までに100%	○目標年度の前倒し。
避難勧告等に係る 具体的な発令基準 の策定状況(水害、 土砂災害、高潮災 害、津波災害)			
常時観測火山(9 火山)のハザード マップの作成状況			
洪水ハザードマッ プを作成した市町 村の割合			
津波ハザードマッ プを作成した市町 村の割合			
津波避難計画を作 成した市町村の割 合			
食料自給率(カ ロリーベース)	2 経済・産業(1) 農林水産業の持続 的な成長	変更前 258%(R7) 変更後 238%(R7)	○第6期北海道農業・農村振興推進計 画において、268%(R12)を目標とし て設定。これをベースに算出。
新規就農者数	2 経済・産業(1) 農林水産業の持続 的な成長	変更前 毎年770人(r7) 変更後 毎年670人(r7)	○第6期北海道農業・農村振興推進計 画において、R7まで毎年670人の新 規就農を目標として設定。
新エネルギー導 入量	2 経済・産業(4) 新たな成長産業へ の挑戦や研究開発 の推進	変更前 (設備容量) 292.7万kW以上(R7) (発電電力量) 8,115百万kWh以上(R7) (熱量) 20,133TJ以上(R7) 変更後 (設備容量) 461万kW(R7) (発電電力量) 11,911百万kWh(R7) (熱量) 18,357TJ(R7)	○北海道省エネルギー・新エネルギー 促進行動計画【第三期】において、設 備容量：764万kW(R12)、発電電力 量：20,122百万kWh(R12)、熱量： 20,960TJ(R12)を目標として設定。 これをベースに算出。
観光消費額	2 経済・産業(6) 道民をはじめ国内、 そして世界から愛 される「観光立国北 海道」の実現	変更前 道内客1人当たり 15,000円(R7) 道外客1人当たり 79,000円(R7) 外国人1人当たり 209,000円(R7) 変更後 道内客1人当たり 15,000円(R7) 道外客1人当たり 79,000円(R7)	○指標については、感染症収束までの道 筋が不透明であることや、訪日旅行 については、入国手続及び帰国手続 が必要であること、また、国内の感染 状況が落ち着いている状況下におい ても入国制限拒否の措置は変わらず、 訪日來道観光客数が0万人の状 況であることを踏まえ、コロナ前と 同程度に戻るという前提が立てづら い環境であることから、現状では数 値目標を設定しない。 (観光関連指標については、現在、 北海道観光審議会においても 審議中。)

指標名	箇所	内容	考え方
就業率	2 経済・産業(7) 良質で安定的な雇 用の場づくりと産 業人材の育成・確保	<b>変更前</b> 全国平均値(R7) <b>変更後</b> 各年において前年 よりも上昇(R7)	○目標を第2期北海道総合戦略の目標 値に合わせる。
本道からの転出 超過数	3 人・地域(6) 連携・協働・交流に よる未来に向けた 地域づくり	<b>変更前</b> 0人(R7) <b>変更後</b> 0人(R5)	○目標年度の前倒し。
個別施設ごとの 長寿命化計画策 定率	3 人・地域(7) 持続可能な社会・ 経済を支える社会 資本の整備	<b>変更前</b> 100%(R2) <b>変更後</b> 100%(R3)	○R2時点で95%であり、100%に達し なかったため、目標年度を1年延長。

### 【指標の入れ替え】

「R：年度、r：年」

指標名	箇所	内容	計画推進課の考え
HACCP 手法に よる衛生管理導 入施設数(累計)	1 生活・安心(5) 道民生活の安全の 確保と安心の向上	<b>現状値</b> 511 施設 (H26) <b>目標値</b> 2,250 施設(R7)	○食品衛生法改正により、R3.6.1 から 原則すべての食品関係施設に HACCP 手法による衛生管理の導入 が義務づけられたことから、指標及 び目標値を設定することがふさわし くない状況となった。このため、法 で義務づけられた HACCP 手法より も高度な自主衛生管理を認証する左 記の指標と入れ替えを行う。
北海道 HACCP 自主衛生管理認 証制度による認 証施設数(累計)	1 生活・安心(5) 道民生活の安全の 確保と安心の向上	<b>現状値</b> 302 施設(R2) <b>目標値</b> 450 施設(R7)	
道内建設業就業 者の年齢階層別 構成比の 29 歳 以下の就業割合	2 経済・産業の (3)中小・小規模 企業の振興や地域 商業の活力再生	<b>現状値</b> 8.3% (h26) <b>目標値</b> 13.1% (r7)	○社会状況の変化により、65 歳以上の 継続雇用が増加しており、現行の「就 業割合」では、若年者就業に向け実 施している取組の効果が見えにくい 状況。このため、取組の効果が把握 しやすい指標に入れ替えを行う。
新規高等学校卒 業者の道内建設 業への平均就職 内定者数(各年 3月末)	2 経済・産業の (3)中小・小規模 企業の振興や地域 商業の活力再生	<b>現状値</b> H28～R2の平均 就職内定数 754 人 (R2) <b>目標値</b> R3～R7の平均 就職内定数 830 人 (R7)	
道外からの観光 入込客数(うち 外国人)	2 経済・産業(6) 道民をはじめ国内、 そして世界から愛 される「観光立国北 海道」の実現	<b>現状値</b> 723 万人 (154 万人) (H26) <b>目標値</b> 1,150 万人 (500 万人) (R7)	○指標については、感染症収束までの道 筋が不透明であることや、訪日旅行 については、入国手続及び帰国手続 が必要であること、また、国内の感 染状況が落ち着いている状況下にお いても入国制限拒否の措置は変わら ず、訪日来道観光客数が 0 万人の状 況であることを踏まえ、コロナ前と 同程度に戻るという前提が立てづら い環境であることから、現状では数 値目標を設定せず、左記の指標に入 れ替えを行う。  〔観光関連指標については、現在、 北海道観光審議会においても 審議中。〕
観光入込客数	2 経済・産業(6) 道民をはじめ国内、 そして世界から愛 される「観光立国北 海道」の実現	<b>現状値</b> 道内客 4,441 万人(R1) 道外客 592 万人(R1) <b>目標値</b> 道内客 4,880 万人(R7) 道外客 700 万人(R7)	